

# 湯島キャンパス整備基本構想（概要）

東京科学大学は、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合して2024年10月に誕生しました。

湯島キャンパスは新大学の最重要な教育・研究拠点の1つになるため、東京科学大学の発展と社会への一層の貢献とに資する教育・研究環境の形成を図ることが強く望まれます。

その実現のためには、現状の諸課題を解決して、中長期的な発展の礎となるキャンパス再整備の具体的な計画策定と、そのもとでの着実な整備推進とが必要になると考えています。

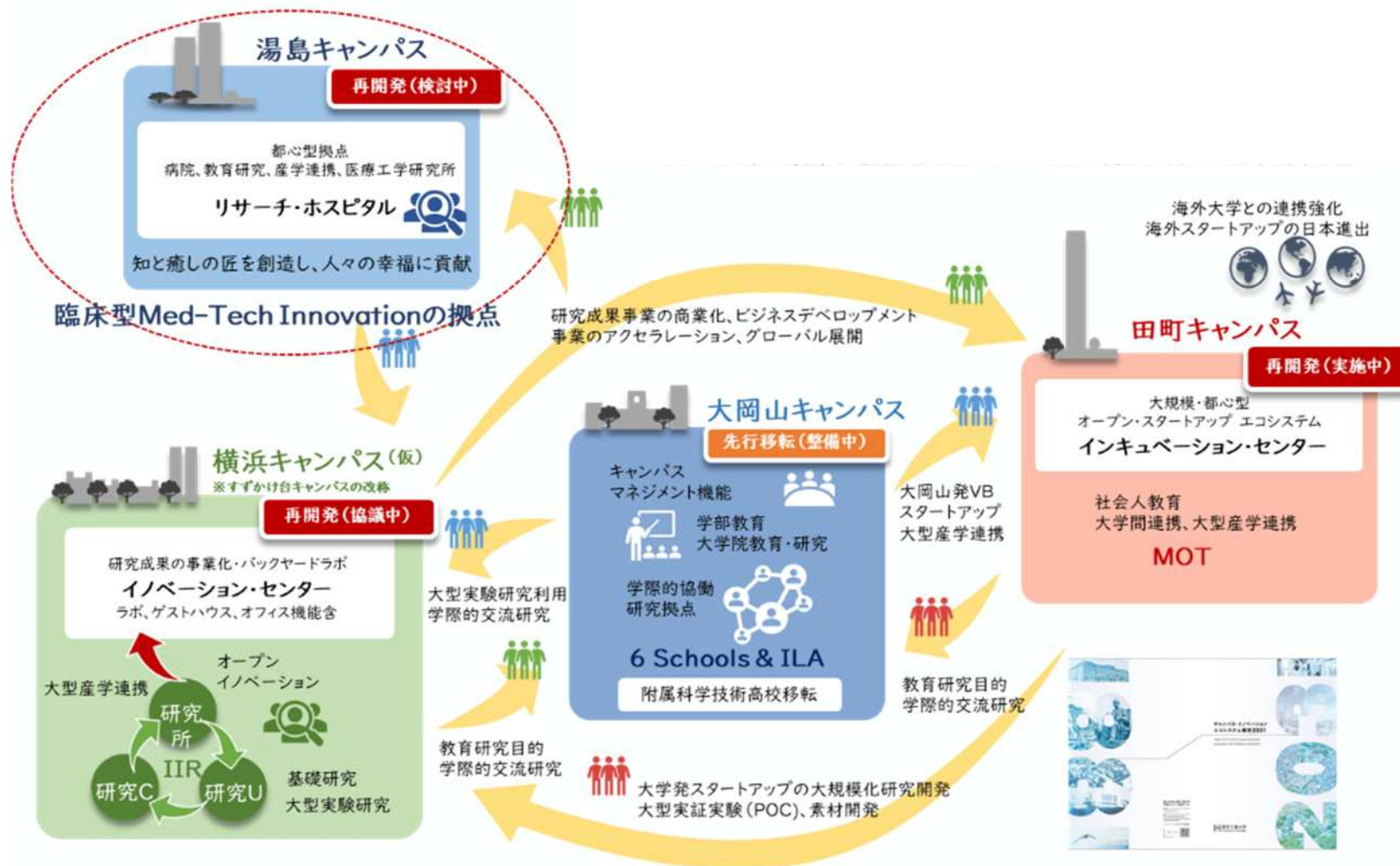
そこで東京科学大学におけるキャンパス将来計画の前提となる基本方針を策定し、それを「湯島キャンパス整備基本構想」として整理し、旧東京医科歯科大学の役員会（2024年9月20日開催）にて決定しました。

この度「湯島キャンパス整備基本構想」の概要をまとめ、「湯島キャンパス整備基本構想（概要）」を公表いたします。

2024年11月

# 湯島キャンパスの位置づけ

東京工業大学と統合し「東京科学大学」となるに当たり、湯島キャンパスを新大学の臨床型メドテック※<sup>1</sup>のイノベーション拠点であり、リサーチ・ホスピタル※<sup>2</sup>としての役割を有するキャンパスとして位置付けることになりました。



※<sup>1</sup> メドテック : IoT等のテクノロジーを医療に活用する取り組み

※<sup>2</sup> リサーチ・ホスピタル: 臨床データの活用など新しい医療技術を病院の機能を活用して研究・開発する病院

臨床型メドテックのイノベーション拠点、リサーチ・ホスピタルとしての役割を有するキャンパスとして今後の一層の発展を目指す上で、以下の成長基盤となるスペースが必要になると考えています。

- (1) 今後の研究資金、研究人材の充実に伴うスペース
- (2) 大学統合による分野融合強化のためのスペース
- (3) 基準に照らし不足している教育研究のスペース
- (4) 産官学連携のスペース
- (5) 巨大災害への病院機能強化のためのスペース

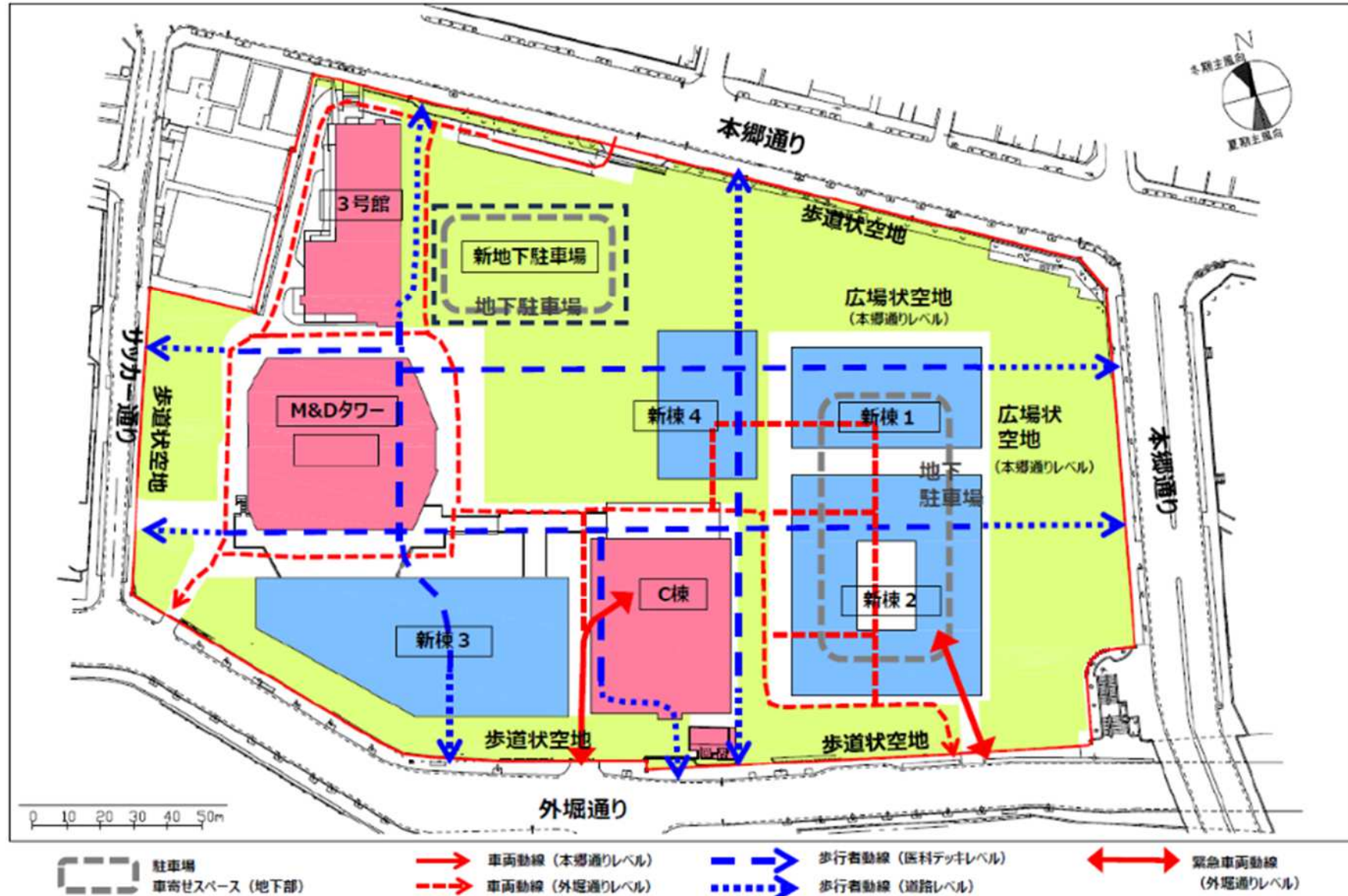
## 整備構想の方向性等

必要となるスペースを確保するための整備構想の方向性や、建物・空間配置の基本的な考え方を以下のように考えています。

- (1) 公共空間を確保するために、現在の湯島キャンパス敷地の東半分になる建物をすべて除去して、超高層の複数の建物に集約して置き換える
- (2) 集約される超高層の建物の湯島聖堂側に大規模な公共空間を設ける
- (3) 新たな超高層ビルの地下および取り壊したビルの地下構造物を再利用して、十分な容量の駐車場と車寄せ等のスペースを設ける
- (4) 湯島キャンパスへの入出構の車両動線とインフラ動線とを適切に集約し直す
- (5) 湯島キャンパス内の歩行動線、キャンパスを南北に貫く歩行者動線などを単純化し分かり易くする
- (6) 空地および緑地を確保した後に、現在の立体駐車場を除去し、新たな超高層ビルを建設する
- (7) 建物の建替え計画と構内のインフラ及び動線計画、駐車場計画等を時間的に整合させた整備手順とする

# 整備構想の方向性等 (続き)

本構想で考える建物配置や空地・緑地の配置などについては、今後、詳細な検討を行う予定ですが、現時点で考えられる概ねの建物配置を下図に示します。



# (参考) これまでの整備構想

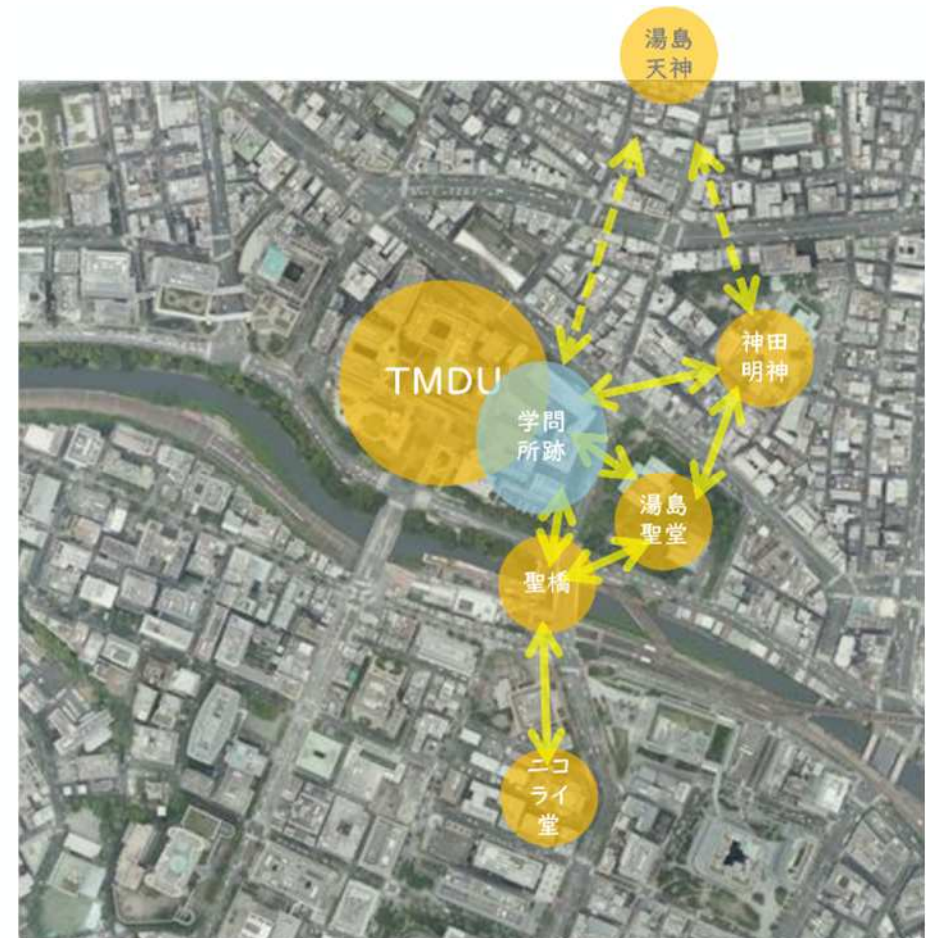
2016年度に作成した湯島キャンパスの整備構想をご参考までに示します。  
公共空間の確保が難しい構想となっております。



# 湯島キャンパスにおける社会貢献

本学は、本構想による整備により、広く国際社会や地域社会に対して、以下の様な貢献や幅広い効果を発揮できると考えています。

- (1) 医療系イノベーション促進のための研究者、スタートアップ等の人材輩出  
(イノベーション)
- (2) 激甚災害時のトリアージ※<sup>3</sup>、救急医療体制の抜本的な強化 (激甚災害対応)
- (3) キャンパス高層化による大規模公開空地の確保・提供 (緑地、都市環境)
- (4) 歴史資産と連携した文化・伝統を育む空間・施設整備 (インバウンド観光、文化)
  - ①教育・近代学問の発祥の地を  
未来に繋ぐ回遊軸をつくる
  - ②災害と復興：  
震災復興のシンボル軸をつくる
  - ③回遊軸上にある教育・学問の聖地の  
観光資源化を図る
- (5) 交通アクセス機能や交通広場機能等の強化  
(地域交通、歩行者安全)



※3 トリアージ：災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること